

新規発泡剤 MB (EV71C) のご紹介

エンジニアリングプラスチックのように成形温度が高い場合、発泡剤は実質的に ADCA 以外の選択肢が無いのが現状でした。しかし、ADCA では成型品の外観が損なわれるケースが多く、さらにアンモニア等の分解生成物が設備を腐食することがありました。そこで、高温領域での成形に対応すべく、新規発泡剤を開発しました。

新たな有機系化学発泡剤

右の表では、
無機系発泡剤として代表的な「重曹」、
有機系発泡剤として代表的な「ADCA」、
新規発泡剤「AGO」を比較しています。

既存発泡剤と開発品の基本物性

	重曹	AGO	ADCA
分解温度 (°C)	150	205~215	200~210
発生ガス量 (mL)	150	150~180	200~220
発生ガス主成分	CO ₂	CO ₂	N ₂
発生アンモニア量 (mg/g)	—	1.5	11.1

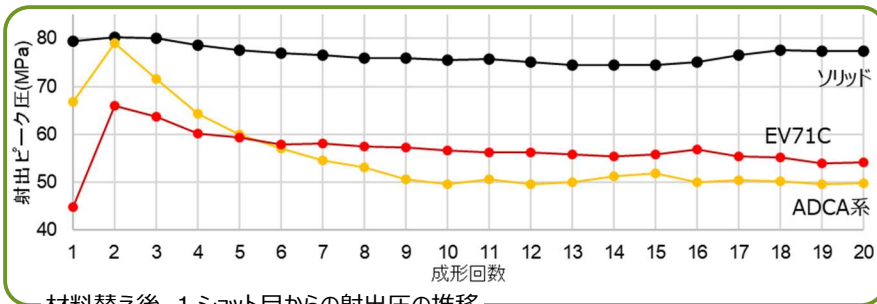
特に発生ガス成分と分解温度に特徴があり、重曹よりも**高温で分解**し、**CO₂**を発生させることができます。
また、ADCA の使用で度々問題となる発生アンモニア量を大幅に低減。金型腐食や作業環境の改善が期待できます。

ポリスレン EV71C

「AGO」を混練した発泡剤マスターバッチです。

多様な樹脂との相溶性を考慮し、ベースポリマーに EVA を使用しています。

◆ナイロン6の射出発泡成形例



材料替え後、1ショット目からの射出圧の推移

100t 射出成型機, コアバック成形
注入板厚 2mm, 最終板厚 3mm



開発品の昇温下におけるガス発生図

- ✓ ADCA 系従来品と比較して早い段階から射出圧が安定
= **成形安定性が良好**
- ✓ 高い**軽量化率**(発泡倍率)と**表面性**を両立



EV71C



ADCA 系従来品

ご興味を持たれましたら、お近くの営業所または弊社 HP までお問い合わせください。

東京営業所：03(3866)9251, 関西営業所：075(256)4332, 名古屋営業所：052(582)1781,
研究開発部：0569(22)6433

<https://www.eiwa-chem.co.jp>